

## 平成 27 年度第 8 回政策会議概要

- 1 開催日時：平成 27 年 10 月 22 日（木）8:30～9:15
- 2 議事概要：以下のとおり  
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

### 議題 1 政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

#### ●安井課長【企画課】（資料 1 に基づき説明）

政策創造員会議は中長期的かつ部局での取組が困難な課題を対象に幅広い視点から調査・研究を行っており、メンバーの政策創造能力の向上を目指している。本日はこれまでの成果について中間報告をさせていただくので、最終報告に向けて、みなさんのご意見、ご指摘をいただきたい。

（WG 1 から WG 4 までの各グループから発表）

#### ☆石垣副知事

今回のテーマは非常に面白い。それぞれすばらしいが、気になった点だけ指摘する。選挙制度改革について、若者に政治に関心をもってもらうための取組を検討するのはいいことだと思うが、高齢の有権者が多いから高齢者向けの政策を進めているというのは思い込みがあるのではないか。若者の投票行動をあげることは大事であるが、多くの高齢者が選挙に行くから高齢者向けの政策を行っているというのはどうかと思う。

#### ☆植田副知事

「ここで死ねたら幸せ」「安楽死」というテーマがあるが、みなさんは若いので、もっと夢を持って、死に急ぐのではなく、生きることにもっと重点を置いてもらいたい。「安楽死特区」という名前が、三重県へ来たらいつでも死ねると思われ、イメージ的に悪いと思う。どちらかという、三重県へ来たらいつまでも幸せに生きられるという表現にするとか、ここで一生充実して過ごせるという視点を入れてもらえるとうれしい。外国との比較をしているが、この中には宗教での死生観も背景にあると思う。仏教は死ではなく、どう充実して生きるかということが大事で生に重点化している。死はその後の話だと思う。外国との比較もあるが、キリスト教と仏教の違いや文化の違いもある。

#### ☆渡邊危機管理統括監

4 つとも興味深い。植田副知事からもあったが、死ではなく、生きるということに視点を置きかえて、幸せに最期まで過ごせるという提案をしていただけたらよいのではないか。選挙制度では、いかに若者に選挙に行ってもらうかについては教育委員会での教育もあるが、それとは違う観点で、みなさん若いので、若者の感性での訴え方ができるというものがいいのではないかと思う。

#### ☆吉仲農林水産部長

WG 3 の「安楽死」について、是非みなさんには現場でそのようなことに携わっている看護師、施設の方の話や、少しデリケートだがそういう道を選ばざ

るを得ない家族などの感覚や意見を聞いていただけるともっと現実に近い、深みのあるものができると思う。

☆高沖環境生活部長

選挙について、私も事務に長く携わっていたが、なかなか若い人の投票率が上がらなかった。特区を導入して投票や政治に関心を持たせるというのは、うまくできたらいいが、今日の報告では特区の効果でどこまでできるかよく分からなかったので、最終的にどういう結論に持っていくのか、興味深く見させていただきたい。

☆伊藤健康福祉部長

WG2の資料に「新しい働き方」で「収入と人のつながりが得られる」とあり、起業と書いてあるが、「収入」ではなく「社会参加」というものについても考えてもらいたい。

☆鈴木知事

業務をやりながら研究してもらい、ご苦労様。テーマについては例年と比べるとエッジの立ったテーマが出ていると思うが、例年と比べるとフィールドワークが弱い。それと、なぜこの人たちに聞いたのか、対象者に若干偏りがあると思う。なぜこの人たちに聞いたのかがないと全体の研究内容において説得力がないと思うので、フィールドワークを強化して多様な価値観を入れて、その上でエッジの立ったテーマであってほしい。反対論を恐れる必要はないが、いろいろな話を聞いてフィールドワークをきちんと行ったことに立脚したものにしてほしい。先ほど高沖部長からもあったが、なぜ特区なのか、特区への過剰な期待が少し感じられる。実際に全国的に特区で世の中が変わったような成果を上げている地域が本当にあるのかを考えてもらおうと、特区への過剰期待があるのではないかと思う。エッジを立てていく、タブーにチャレンジしていくというのは、中身や論理構成でそうしてほしい。言葉をキャッチーにすることで目を引くのではなく、中身の論理がこれまでのタブーにチャレンジしているということであってほしい。タブーにチャレンジしつつも自分達の業務に教訓を得たものであってほしい。研究作業の中で中長期的なものの方の見方や仕事の仕方において教訓を得られるように戦略企画部においてサポートしてもらいたい。

議題2

●中野課長【行財政改革推進課】(資料2に基づき説明)

ワーク・ライフ・マネジメントの上半期の進捗状況について、速報値が取りまとまったので報告する。年休取得時間及び超長時間勤務者は目標を達成する見込みであるが、時間外勤務時間は目標を3%上回る見込みである。

各部局においては目標達成意識を持ち、その上で数値目標を示すだけでなく、どのように業務を進めていくのかを考えていただくよう、トップマネジメントをお願いしたい。

☆植田副知事

今回は上半期時点の見込みであるが、目標に向けて年度末まで取り組んでいただきたい。

### 議題3 「県民の声を受けて」公表分の概要について

#### ●竹内戦略企画部長（資料3に基づき説明）

資料3の「県民の声を受けて」公表分の概要であるが、10月1日及び同月16日付けの県ホームページ公表分については、県民の声の件数は30件で、県の対応件数は32件であった。

主な内容としては、職員に関するものとして、職員の電話対応や勤務中の行動についての苦情が2件寄せられた。

また、「県民の声を受けて実施した」案件で、業務の改善等へ反映したのものとして、県営住宅に関するホームページについての提案意見と職員の電話対応についての苦情への対応があった。

各部局においては、内容をよく確認し、適切な対応をお願いしたい。

#### ☆福田地域連携部長

別表の整理番号8の津庁舎のおもいやり駐車場の利用についてであるが、津庁舎のおもいやり駐車場のスペースは職員と県民と区分されておらず、利用証を交付された職員がおもいやり駐車場を利用していることについて県民から声をいただいた。

本日の資料では対応結果が「施策の参考とする」と整理されているが、実際にはおもいやり駐車場を増やすことで既に対応したところである。